

豊かな 大地の恵み



「蝦夷富士」の愛称を持つ羊蹄山（1898メートル）は円すい形の成層火山だ。火山灰や溶岩が積み重なって形成した成層火山のすそ野にはしばしば湧水（ゆうすい）が見られるが、羊蹄山もその例外でない。毎秒20リットル以上の豊かな水量を誇る湧水は、京極町、ニセコ町、倶知安町、真狩村などに全部で17カ所。湧水量は1日合計30万トンにもなる。

羊蹄山は透水性が高く、降水や雪解け水の大部分は地下に浸透し地下水脈を作っている。地下水脈を流れる水は、50〜70年をかけてゆっくりろ過され、ミネラル分をほど良く含んだ硬水となって流れ出ている。

中でも京極町の「ふきだし湧水」は、国内最大級の湧水として知られる。水の特徴は、年間を通して変わらない水温（6・5度）と純度の高さだ。塩素イオンや有機物などの不純物はほとんどなく、味はまろやかでのどしがとてもよい。1日の湧水量は約8万トンで、30万人分の生活用水に匹敵。町はこの水を約3500人の町民の飲料水として利用しているほか、下水道や工業用水にも使っている。同町企画振興課長の後藤田紘さん（57）は「おいしい水は買わなければ飲めないという時代に、ぜいたくな使い方をするのかと思う

私と遺産

感謝を込めて守る宝

松田玄龍和尚の弟子で龍門寺の3代目住職だった中川玄中さん（79）は「和尚が湧水を町に寄付したのは、個人で所有すると欲が出てさまざまな災いが起こると考えたのじゃないかと思う」と、玄龍和尚の無欲をたたえる。

1923（大正12）年に倶知安町から移住してきた中川さんは、ふきだし湧水をずっと見守ってきた。「水質や水量は昔と変わらない。町と町民が大切に守ってきた証拠です」と目を細める。

毎年8月、「ふきだし公園」で仏尊像例祭を行い、町民とともに湧水への感謝の気持ちを新たにしている。「湧水は、自然が与えてくれた貴重な宝で財産。これからも美しくおいしい水が汚されないよう、弟子とともにお守りしたい」

まちづくりと遺産

次世代につなぐ財産

飲料水、下水道、工業用水などとして使われている湧水を京極町は「町の貴重な財産」と位置付け、良質な水資源を保全する環境整備を進